

特別養護老人ホーム 簸の上園

1 施設の課題と取組方針

(1) 『心豊かな暮らしづくり』

ア サービスの質の向上

課 題	個別ケアの実践と体制の確立
現 状	実践理念を職員間で共有をしているが、これまでの支援方法からの脱却ができず、目の前にある業務が優先となっている。利用者にとって何が大切であるか見極める力が不足し、画一的な支援となっている。利用者からも『ゆっくり話を聞いてもらえない』との声もあり、個別ケアを推進していく必要がある。利用者を理解するための「わたしの姿と気持ちシート」は作成しているが、専門的な認知症の理解が十分とはいえず、利用者の生活歴や趣味、また、生きて来られた時代背景を理解した支援ができていない。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に応じた介護技術や生活環境の見直しを行い、自立した生活が支援できるように、チームの育成に取り組んでいく。 ・全職員が実践理念に基づいた、個別ケアのあり方について理解し利用者の1日の暮らしが分かるシートを作成し実践できる体制を構築していく。 ・施設全体で自己評価を実施し、サービスの質の向上と課題解決に向けて取り組む。 ・認知症介護実践者研修等の実践的な研修に職員を派遣し、学んだ知識や関わり方を浸透させ、根拠に基づいたケアを実践する。

イ 利用者の暮らしの保障

課 題	事故防止策の強化
現 状	毎月の事故対策部会で検討を行い、事故発生後の情報の共有は概ねできているが、事故防止に繋がっていない面も見られる。また、ヒヤリ・ハットの報告件数は増加しているが、利用者のアセスメントや事故の対応策が不十分であり、安全、安心を守る為の支援になるようにする必要がある。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・24Hシートや「わたしの姿と気持ちシート」から、利用者のアセスメントを行い分析能力や危険予知能力を高めて行く。 ・事故分析した事例を職員へ周知し事例から学ぶ体制を作る。 ・生活環境や福祉機器の点検と、職員の介護技術の向上を図り安全、安心な環境が整うようにする。

課 題	職員の接遇の向上
現 状	日頃のケアの中で、不適切な態度や言葉遣いを無意識に使用していることがある。また、職員同士がチェックしあえる職場となるよう取り組んでいかなければならない。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 権利擁護及び虐待防止などについての研修を行う。 ・ 不適切なケアについてチェック体制を整え、気づきができる職員の育成に努める。

ウ 福祉ニーズに即したサービス提供

課 題	うしおサロンの継続
現 状	簸の上園は、多くのボランティアの協力により、地域との交流が盛んである。また、海潮地区の高齢者が気軽に集い、ふれあいを通して仲間づくりを進める場の提供として、地域交流スペースで開催している「うしおサロン」は、この3年間ほとんどの利用者が継続して利用されており、新規利用者も増えている。サロン開始当初は、海潮地区の自治会や民生委員の協力によって利用者の紹介があったが、現在は地域包括支援センターや居宅介護支援事業所のケアマネージャーからの紹介を通じて、利用される方が増えており、サロンが地域に認知され、定着してきたといえる。その一方で、利用者の増加によって、職員で行っている送迎の調整の問題、また認知症のある利用者への対応やサロンの企画ボランティアの負担などの問題に直面している。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営委員会を開催し、送迎調整やボランティアの負担などの課題について検討する。 ・ サロンの企画内容について、利用者へのニーズ調査を行う。 ・ 必要に応じて、利用者家族への支援や助言を行っていく。

(2) 『活力に満ちた職場づくり』

ア 人材の確保と定着

課 題	人材の確保と定着
現 状	雲南圏域は、松江または出雲圏域に人材が流出している現状があり、職員の応募が少ない。また、準職員、非常勤職員はベテラン職員が多く、定年等による職員の退職も懸念され、職員の確保と定着に取り組む必要がある。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準職員、非常勤職員に対して管理職による面談を実施し、職場環境の改善を行い、モチベーションを高める。また、面談の中から離職となる原因を洗い出し改善策の検討、実施並びに評価を行う。 ・ 職場体験、施設実習の受け入れを積極的に行うことで職員確保に繋げていく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・準職員、非常勤職員も事業団の OJT 研修を活用し安心して勤務が続けられる環境を整える。
--	---

イ 人材の育成

課 題	チーム力の強化
現 状	<p>チーム間での情報の共有や「報・連・相」がコミュニケーションの不足により十分でないため、チームとしての機能が思うように発揮できていない。また、新規採用職員については、指導担当者制度に基づいた育成体制はできているが、2年目からの職員については階層ごとに求められる役割を発揮するには至っていないことから、育成方法を整えて行く必要がある。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性や根拠を活かした OJT が実践できるよう、資格取得や研修の計画を行い、スキルを身につけるように取り組む。 ・グループマネージャー以上の職員のスーパーバイズの機能を高め、フォロー体制を整える。 ・正規職員一人ひとりに求められる役割が発揮できるようにする。

ウ 職場環境の改善

課 題	メンタルヘルスへの取り組み
現 状	<p>対人援助に関わる職員は、各々がストレスと向き合いながら業務にあたっている。雇用形態や勤務形態が様々で十分な話し合いができ難い状況があり、職員間の連携が思うように取れないことも、ストレスを感じる要因となっている。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職の個別面談やグループ討議等意見交換の場を設定し、職場環境やストレスの要因を把握し、早期に対応していく。 ・セルフケアの教育や多目的休暇の取得を推進する。

エ 業務の改善

課 題	業務改善と勤務体制の見直し
現 状	<p>個別ケアを進めるためにも、業務の改善や勤務体制の見直しを行っていかなければならない。利用者の生活に合わせた支援を行うこと、また介護員の心身への負担からも夜勤体制の見直しを検討していく必要があると考えられる。ミーティングについても時間を要し、支援にも影響があることから、情報の共有について改善していく必要がある。</p>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケアを充実させるため、勤務体制や業務の見直しを各部署や各里で実施していく。 ・夜勤体制についても地域性に配慮しながら体制を整えていく。

・各委員会、里会、ミーティングの見直しを行っていく。

(3) 『快適な住まいづくり』

ア 計画的な施設・居住環境の整備

課 題	施設整備計画の策定
現 状	改築後 16 年が経過し、建物、内装、設備等老朽化が進んでおり、空調設備については、昨年度更新を行い、光熱水費の削減にもつながったところである。しかしながら、老朽化による不具合への応急的な修繕が増えている。利用者の生活や職員の業務に大きな支障がでないよう早めの修繕または改修の検討が必要である。また、個別ケアの推進等新たなケアに合った環境を構築していく必要がある。
取組方針	・次期介護保険制度改正や医療報酬改正、雲南市のニーズや情勢をふまえて、効率性や利便性を高めるために、生活環境に配慮した修繕を検討していく。

(4) 『安定的な経営の基盤づくり』

ア 収支の安定化

課 題	利用率の維持向上
現 状	安定した施設経営をしていくには、収入の安定が必須であり、利用率の維持向上が不可欠である。特養入所利用率は、大きな変動はなく維持してきているが、入所待機者の多くは重度の認知症や医療的なケアが必要な方であり、現状の体制では十分な受入ができない場合や、待機者が入院治療中ですぐには入所できない場合等、入所までに時間を要することがある。短期入所事業については、今年度から多床室 1 室を個室 2 室に変更したことで、利用調整がスムーズになり、利用率は向上している。しかしながら、冬期は利用が減少傾向になることや、短期利用者が施設入所などにより減少していくことから、新規利用者の確保が重要である。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・入所待機者の状況把握を早い段階で行い、家族面談や担当ケアマネージャーからの情報収集を行い、速やかに入所に繋げる体制を確保する。 ・医療的ケアの必要な方の受入体制の検討を行う。 ・短期入所については、空床利用を積極的に行い、圏域の居宅介護支援事業所のケアマネージャーとの連携を密にし、利用者確保に努める。 ・居宅介護支援事業所については、関係機関と積極的な連携を図ることで新規利用者を確保する。

2 中期経営計画数値目標

(1) 利用率

事業名	定員	H28 実績	H29 見込	H30 目標	H31 目標	H32 目標
介護老人福祉施設	70 名	98.9%	97.5%	98.0%	98.0%	98.0%
短期入所生活介護	10 名	86.0%	95.0%	92.0%	92.0%	92.0%
居宅介護支援	—	20 件/月	22 件/月	27 件/月	29 件/月	30 件/月
介護予防支援業務 受託件数	—	12 件/月	8 件/月	6 件/月	5 件/月	4 件/月

(2) 固定資産購入計画

(単位：千円)

固定資産名称	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
電動ベッド (更新)	711	966	966
フルクライニング車椅子 (更新)	170	170	170
シャワーキャリー (更新)	279		
入浴用リフト (更新)	577		
ステンレス浴槽 (更新)	1,291		
浴室洗い場シャワー (新規)	641		
スチームコンベクション専用架 台 (新規)	135		
スチームコンベクション (更新)		1,869	
車椅子用体重計 (更新)		171	

(3) 修繕計画 (10 万以上～ 大規模修繕を除く)

(単位：千円)

工事名称	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
小破修繕 (1 件 10 万円未満合算額)	1,000	1,000	1,000
浴室床面補修工事	762		
浴室カーテン移設工事	342		